

## 令和5年度第1回安城市総合教育会議

日 時 令和5年6月22日(木)  
午後3時から午後4時

場 所 教育センター2階 会議室

出 席 者 市 長 三星 元人  
教育委員会 石川 良一 教育長  
加藤 滋伸 教育長職務代理者  
久恒 美香 委 員  
深津 敦司 委 員  
中村 沙織 委 員

出席した職員 横山 真澄 企画部長  
横手 憲治郎 企画部行革・政策監  
神谷 徹 教育委員会教育振興部長  
加藤 浩明 教育委員会生涯学習部長  
鈴木 淳之 企画部健幸=SDGs課長  
澤田 敦至 教育委員会総務課長  
鳥居 貴之 教育委員会学校教育課長  
大見 徹也 教育委員会生涯学習課長  
津口 嘉己 教育委員会スポーツ課長  
杓名 智和 企画部健幸=SDGs課課長補佐  
野村 勝美 教育委員会学校教育課課長補佐  
内藤 拓自 教育委員会スポーツ課課長補佐  
杉本 慎吾 教育委員会総務課庶務係長  
平井 友理香 教育委員会文化振興課芸術文化係長  
稲垣 創一 企画部健幸=SDGs課企画政策係専門主査

傍 聴 者 なし

次 第

1 開 会

2 市民憲章唱和

### 3 あいさつ（要旨）

市長：教育委員の皆様には、日ごろから安城市の教育行政に多大なる御理解と御支援を賜り、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

私自身、今回のこの総合教育会議、初めての出席となる。総合教育会議は教育委員の皆様と意思疎通、そして教育に関する目標課題の共有などをする場と認識している。この場で活発な意見交換をお願いしたい。

本日の議題は「部活動の地域移行について」と「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動について」、この2点である。

教育行政に対して、日ごろから感じているようなことがあれば率直なご意見を伺いたい。

教育長：学校訪問をするなかで子どもたちの様子や授業における先生の様子、研究協議の様子を見ながら現状把握に努めている。

子どもを預かる上で、担任のみならず管理職も含めて、職員全員が共有しておかないと児童生徒の命に係わるようなアレルギーなどの情報を共有しているが、学校現場において担任レベルではたくさんの児童生徒を四六時中注意していなければならない。不登校、いじめを始め、学校が持つ資源・マンパワーだけではとても解決に及ばないことが増える一方なので、部活動の地域移行やコミュニティ・スクールというのはそういった問題の歯止めになる手だての一つだと国も捉えている。

教育委員会だけで何とかなるものではなく、地域ぐるみで進めていこうとしているので、時間がない中かもしれないが、いろいろご意見もいただきながら進めていけるといい。

### 4 議 題

#### 議題（1）部活動の地域移行について

学校教育課長、スポーツ課長説明

三星市長：ただいまの説明に対してのご意見、ご質問等をいただきたい。

深津委員：平日の部活動に対する教職員の不満や負担についてどのように考えているか。

学校教育課長：平日の部活動については今のところ、変更する予定はない。例えば、支所予選が7月の頭にあるが、その直前だと大体18時ぐらいまで各校で部活動を実施している。これは教職員の通常の勤務時間を超えている。

ただ、これについては生徒たちの自主的な活動として行われており、今のところ変更する予定はない。ゆくゆくは平日の部活動についても段階的に地

域で育てていくという形に変わってくるはずだが、まずは休日の部活動を、ということで動いていきたいと思っている。

久恒委員：平日の部活動はしばらくそのままという話だが、市内での大会は、今までどおり支所予選も含めて行えると考えていいか。土日の活動がなければなかなか練習時間が確保できないと思うが。

学校教育課長：現状は学校単位でしか大会に出場できない種目もあれば、学校だけでなく地域のクラブ活動からも、大会に参加できるようになってきている種目もある。生徒達も学校単位で参加するのか、地域のクラブ活動として参加するのかという選択を迫られるような場面が出てくると思われる。

加藤職務代理者：安城市としては方向性が大分固まってきているのはいいと思う。地域移行した場合の課題として、指導者や受け皿の確保が難しいというものがある。教職員に対して休日における地域クラブの指導員を希望するかアンケートをとったところ、61人の教職員が指導員を希望してもいいと回答したようだが、教育委員会としてこの結果をどう捉えているのか。

学校教育課長：調査段階では具体的に地域移行がどのようになるのかということが教職員にも明確には伝わっていなかった。見通しが整ってきている今ならもう少し希望者が増えると見込んでいる。ただ、働き方改革の面で、超過勤務の多い教職員は指導員との兼業は認めないということもあり、そのことも加味しながら対応していきたい。

加藤職務代理者：元々は教職員の多忙化の点から出てきた話でもあるので、制度周知をしながら無理のない計画でやっていけたらいい。

また、生徒の安全上の不安ということもよく言われる。地域に移行した場合も保険には入るのだろうが、安全上の対応についてはどう考えているか。

スポーツ課長：地域クラブにおいても費用負担はあるのかもしれないが、保険には加入してもらおう。また、市が主催するスポーツ教室についても指導者や参加者について、教室の行き帰りまで補償する保険に加入してもらおうよう考えている。

加藤職務代理者：経済的負担で困っている家庭には支援をする計画があるということなので、それはありがたい。

市長：地域移行に伴って保護者の負担が増えるような部分が当然出てくると思う。特に生活に困窮される家庭に対しては何らかの支援を市として考えていく必要があると思っている。

中村委員：困窮する家庭への支援という言葉が出たが、どの段階の家庭が困窮している、という目安があれば教えていただきたい。

学校教育課長：現在、就学援助という制度があり、その対象になるような生徒が該当すると思われるが、ここについてはしっかりと計画を立てて、検討し

てまいりたい。

深津委員：地域移行により体育の授業や体育大会の意味は変わってくるのか。

学校教育課長：体育の授業は今までどおり変更はない。部活動も段階的に地域移行していくが生徒の活動量が減ることがないように考えている。授業や体育大会のような体育的行事に関しては変更する予定はない。

## 議題（２）コミュニティ・スクールと地域学校協働活動について 学校教育課長説明

深津委員：非常にいいシステムだと思うが、問題は委員をどう選ぶか。地域から委員を選ばなければならないが、具体的には誰がどの様に選ぶのか。各小中学校で何人ぐらいの委員が必要だと考えるか。

学校教育課長：地域のことをよく知っている人材、という点がとても大事だと思っている。さらに、学校現場のこともよく知る人となると、教員のOBや民生委員、町内会長などが候補になるであろう。

深津委員：その候補は誰がどういう形で選ぶのか。学校側が選ぶのか。

学校教育課長：学校と教育委員会が地元と協議しながら進めていくという形になり、学校・教育委員会側が一方的に決めるというわけではない。

深津委員：地元というと具体的には町内会や議員か。具体的に思い浮かばないが、委員ができるような人が本当にいるのか気になる。

学校教育課長：学校の動かし方や学校での子どもたちの様子などをある程度把握して、動ける肌感覚を持った人がいいと考えている。そうすると、ある程度学校現場をよく知る人間という点で教員のOBや元校長などが候補であると考えている。人数については、まずは3名程度で考えている。

久恒委員：委員の方たちにはどれぐらいの頻度で活動してもらう予定で考えているか。

学校教育課長：学校運営協議会は年に数回という頻度で開催される予定。ただ、地域学校協働活動、例えば本の読み聞かせであるとか、朝の登校指導の見守りなどに関しては日常的な活動になると考えている。

加藤職務代理者：一番肝になるのは地域学校協働活動推進員になると思うが、委員をうまく見つけられるといい。委員に協力していただけるような方をあと2人ぐらい見つけるのは厳しいと思われる。一度に全校実施するのは無理だと思われるから先行して中学校2校から始めていくという考えか。

学校教育課長：モデル校が1、2校できるといいと考えている。中学校から始めるのがよいのではないかというのが皮算用だが、小学校からでも中学校からでもどちらから始めても間違いではない。ただし、中学校からスタートし

たほうが、地域の実態を小学校に広げていくとなったときに、小学校から中学校へ広げるよりもスムーズに展開できると考えている。

加藤職務代理者：これから考えていくということだが、確かにいくつかの小学校から一つの中学に行くことを考えると、まずは中学校から始めたほうがいい感じはする。それは検討課題になろう。

委員はどのぐらいの勤務日数を考えているのか。

学校教育課長：実際に地域学校協働活動が動き始めたとして、最初の段階では地域とのつながりを作っていくことになる。週何日勤務か、などについては検討ができていないが、今から決めていきたいと思っている。そのためにもまずは今年の夏休み期間に各学校を回って実情を把握し、地域の人材がどのように学校に入ってこれそうなのかなどについて、把握していきたい。

加藤職務代理者：今後の予定として7月から8月に学校に訪問し、話を聞いていくということだが、安城市内の教職員はコミュニティ・スクールについてどのぐらい理解しているのか。

学校教育課長：現在、教職員がどれだけコミュニティ・スクールについて知識があるかと問われると、まだまだ半ばである。

ただ、この夏休みに研修で、東京都三鷹市の教育長に来てもらい講演を考えている。他にも、校長・教頭の合同研修会や教頭対象の研修会も予定しており、周知を図っていく予定。

加藤職務代理者：教職員への研修会以外にも、地域の方々への周知・お願いについてはどのように考えているか。

学校教育課長：まずはモデル校の学区から、コミュニティ・スクールをこのように進めていきます、という説明会の開催を検討している。

加藤職務代理者：連合町内会のような組織にも出向いて説明することも必要になってくるのでは。

深津委員：モデル校として中学を考えているということだが、中学校だと規模が大きい。一方で、読み聞かせや登下校の見守り、放課後子ども教室はいずれも小学校での取り組み。小学校の方が地域とのつながりは強いし、規模としても大きくないので、モデルとしてやりやすいような気がする。中学校だけじゃなくて、小学校でもやりやすいところから始めてもいいんじゃないかと思う。

学校教育課長：検討させていただく。

加藤職務代理者：コミュニティ・スクールの推進において、生涯学習課の立場というのかなり重要な位置になるだろうが、どのような関係で進めていくのか。

学校教育課長：生涯学習課にコミュニティ・スクールを推進する統括のコーデ

ィネーターを設置している。そのコーディネーターと共に学校を回っていくなど、連携をしていくので、学校教育課だけで進めるということはない。

中村委員：深津委員同様、小学校もモデル校にしてほしい。読み聞かせや見守りというのは現在、学校の教職員が手配・調整をしてくれているが、外部に委託できたら教職員の負担も軽くなるのかと思う。

また、地域への発信力が増すのではないか。読み聞かせボランティアを毎年募集しているが、増えるボランティア数以上に卒業していく数が多く活動が先細りしている。子どもが学校に通っている現役世代のお母さんたちが読み聞かせをするのは難しい一方で、地域の方にこういう活動を知る機会がもしあれば、活動も活発になると思う。とても期待をしているので、ぜひモデル校として小学校もお願いしたい。

学校教育課長：前向きに検討していきたい。

5 その他

6 閉 会